

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リアルーウ伊勢原新築工事	階数	地上3F
建設地	伊勢原市下糟屋3019-5,6	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域,準防火地域,成瀬第二地区	平均居住人員	64人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2016年3月18日
敷地面積	2,301 m <sup>2</sup>	作成者	(株)井上穰建築デザイン研究所
建築面積	871 m <sup>2</sup>	確認日	2016年3月18日
延床面積	2,246 m <sup>2</sup>	確認者	(株)井上穰建築デザイン研究所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み: 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③ 上記+②以外の: 92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④ 上記+: 184 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 居室は全室個室で18㎡のゆとりのある広さを確保 居室の空調をルームエアコンにより個別制御が可能 車を寄せられる大庇をエントランス設け、室内にはラウンジを計画しコミュニティの形成を図る計画 周囲に四季折々の植栽を施し豊かな環境を創出		0
<b>Q1 室内環境</b> 南側からの日差しを抑える庇を設け、室内環境の熱負荷を軽減する計画 複層ガラスを採用して、さらに熱負荷を軽減を図る計画 全面的にF☆☆☆☆を採用して、空気環境に配慮	<b>Q2 サービス性能</b> 内装に防汚性の高い材料を採用 内装仕上材の更新間隔が長くなる材料を採用	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 防犯性を配慮して周囲のメッシュフェンスを設置 境界と建物とを引きを持たせ、周囲に緑地を設け良好な景観に配慮
<b>LR1 エネルギー</b> 屋根、外壁に断熱材を施し、熱負荷を軽減 照明はLED器具を採用	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 水栓器は自動水栓として節水に配慮 軽鉄間仕切りとGL工法の採用により容易に分別が可能な計画	<b>LR3 敷地外環境</b> 駐輪場、駐車場の適切に配置 屋外照明は光害にならないよう配慮

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される